

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【白幡中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

① 目標・策			
目標			策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において3pt向上させる。	⇒	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等、タブレット端末を有効に活用した自主学習の推進やテスト前のフォローアップ期間の充実など、生徒個人の段階に応じた課題を踏まえ、個別最適な学びを追求し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」において3pt向上させる。	⇒	「学習の質的向上を目指す『学びのポイント』」を意識した授業づくりを進めながら、「ミライシード」や「Teams」を活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図る。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査【学習に関する関心・意欲・態度】における「国語の勉強は好きですか」の肯定的な回答の割合を令和4年度より3pt向上させる。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」における「協働」を重点とした学習活動をタブレット端末を活用したり、小グループでの話し合いの場面を設定したりして効果的に行う。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能		
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国の平均正答率と本校の平均正答率を比較すると、国語+7pt、数学+11pt、英語+16ptであった。全国より正答率が高いが、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において課題が見られた。自分が用いている言葉の働きを客観的に捉えられるような活動を重視したい。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国の平均正答率と比較すると、国語+9pt、数学+13pt、英語+12ptであった。全国より正答率が高いが、数学の「データの活用」の領域ににおいて課題がみられた。複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するような活動を積極的に授業に取り入れていく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は91.3%で全国の割合よりも12.1%上回ったが、「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問項目で課題が見られた。今後さらにタブレット端末の積極的な活用を進めていく。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
目標			策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	
中2	
中3	